

昨年大雪で除雪作業が難航

国道252号 六十里越区間が再開通



▲再開通を祝いテープカットする関係者

国道252号の再開通式典が5月23日、歳時記念館駐車場で行われ、福島県や新潟県の関係者など大勢が出席しました。

例年、ゴールデンウィークには通行可能となっていた六十里越区間ですが、昨年大雪で除雪作業に時間がかかり今年は5月20日にやっと再開通となりました。

式典には、この日を待った多くの町民や観光客などが訪れ、皆で再開通を祝いました。



▲再開通日には車が列をつくりました

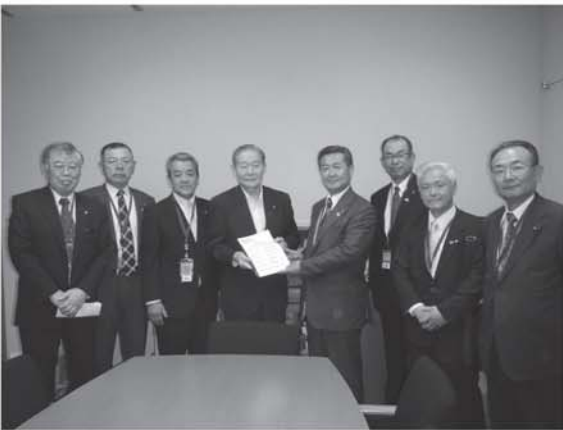
只見線沿線7市町村

国会議員に只見線全線復旧を要望

JR只見線の沿線7市町村は5月11日、福島県の関係国会議員へ只見線の早期全線復旧を要望しました。

今回の要望活動には、只見町、金山町、昭和村、三島町、柳津町、会津坂下町、新潟県魚沼市の首長や議長など関係者が参加し、JR只見線の復旧に向けた鉄道軌道整備法の早期改正などを19名の国会議員へ求めました。

翌12日も、赤字路ローカル線の災害復旧等を支援する議員連盟入会議員へ要望活動を行いました。



▲佐藤信秋議員へ要望書を提出するようす

地域福祉に貢献できる人材の育成

人材育成ダイヤモンドプラン事業 第7期生

5月18日、只見振興センターで人材育成ダイヤモンドプラン事業の第7期生となる「地域福祉に貢献できる人材」育成講座の開講式が行われました。

第7期生は9名おり、開講式では「介護のスキルを身につけたい」「介護についてしっかりと勉強したい」など意気込みを話してくれました。

第7期生の皆さんは、今年度は介護についての基本などを学ぶ予定となっています。



▲開講式後には1回目の講座が行われました



▲集会施設の完成を祝い乾杯

平成23年7月の新潟・福島豪雨災害で甚大な被害を受けた八木沢集会施設がこのたび完成し、5月3日に完工式が行われました。竣工式には地域の皆さんや関係者など約40名が出席し集会施設の完成を祝いました。完成した八木沢集会施設は、洪水時にも使えるように床を高くし、倉庫には防災用品や毛布などを備えており住民の交流のための施設だけでなく災害時の避難場所としても重要な施設となりました。

防災・交流の拠点に 八木沢集会施設が完成

【防災・交流の拠点に】



▲ブナリんの歓迎に喜ぶ福島第三小学校の子ども達

5月27日、福島市立福島第三小学校の6年生78名が只見町に2泊3日で教育旅行に訪れました。児童は、湯らりや町内の民宿に宿泊して癒しの森の散策や、ブナセンターなどを訪れ、只見町の素晴らしき自然を肌で感じ、自然の大切さを学びました。6月も、千葉県の東邦大付属東邦中学校の生徒約120名と、福島市立佐倉小学校の児童約50名が只見町に教育旅行で訪れます。

5月から6月にかけて 只見町に教育旅行生

【5月から6月にかけて】



▲移行地域を示す看板

只見ユネスコエコパーク推進協議会は、町民の皆さんや観光客の皆さんなどへ只見ユネスコエコパークを周知する目的で、域内への重なる入口となる国道289号線(梁取地内)および国道252号線(宮淵地内)に移行地域を示す看板を設置しました。この看板は、国道252号線(塩沢地内)にも今後設置する予定です。

「只見ユネスコエコパーク」 入口看板の設置について

【「只見ユネスコエコパーク」】

只見町は、人間の活動と自然環境・野生生物の共存を目指す、ユネスコエコパークの制度的枠組みを利用して、「只見地域の自然環境や伝統的な生活・文化を守りつつ、活かす」町づくりを推進しています。そのための事業の一環として、昨年12月に町民の皆さんに対してユネスコエコパーク関連事業の提案募集を行いました。その結果、耕作放棄地をソバ栽培に活用する畑作振興事業、只見の特色を活かした農家体験ツアー事業など合計8件の事業提案をいただきました。今回、皆さんから提案いただいた事業について、今年度から予算化し、直ちに着手できるものは残念ながらありませんでしたが、今後、町で行う事業の中で皆さんからいただいた提案を活かせるよう検討を進めていきます。

「ユネスコエコパーク」関連事業 「只見町民による事業提案について」

【ユネスコエコパーク関連事業】